

育児休業を取得した男性警察職員の声



年度始めの繁忙期が一段落したので、上司の後押しもあり、思い切って取得させていただきました。生後4か月の時期でしたが、本格的に育児に参加することにより、改めて育児の大変さや妻の苦勞を理解することができ、子どもとのスキンシップはもちろん、妻の負担軽減に資することができたので、非常に有意義な期間となりました。

また、休業中に必要な連絡をもらっていたので、復職に対する不安はありませんでしたし、今は、仕事と家庭が充実して、新たな気持ちで業務に取り組んでいます。

係内の要が抜けて、最初はどうなるかと不安に思ったが、抜けた分は係内でカバーして、通常業務を回した。少なからず負担となった部分もあったが、業務を見直す良いきっかけとなった。



上司

「女性警察職員の登用」に関する女性警察職員の声



(身近にロールモデルがいることで、意識改革となった例)

昇任に対して消極的だったが、尊敬する先輩から若手警察職員の育成に関する考え方を聞いて、自分の役割を考えるきっかけとなり、昇任に対して前向きになった。

警察組織では、女性にしか対応できない分野があるので、女性の特性を生かしていきたい。

(家庭生活は女性中心に行うという意識を変えるために) 男性職員に家庭に対する意識を持ってもらうことや家庭と育児に関わってもらうことが大事だと思う。



職員の声を参考に、ワークライフバランスの充実に努めます。

